施策３

地域における食育の推進

施策のねらい０１

地域の担い手との連携を進める

食べることは生きることであり、食は人の様々な活動と、おおよそ何らかの関わりがあります。食と健康、食と環境、食と農業、食と文化、食と教育など、関連する団体と連携することで、食育の取組がより重層的になり、発展性をもつようになります。

食育の取組を地域に定着させていくために、地域の団体（食生活改善推進員や健康普及員、地域活動栄養士）等の食育の担い手と連携し、栄養や食文化、調理技術など食に関する知識の普及啓発を行います。

施策のねらい０２

食育推進のための意識啓発を進める

1人でも多くの方が、食育の意義や重要性に共感し、自分自身の取組が、周囲の人々へも広がっていくように、食育の普及と意識啓発を図ります。

食育を推進するためには、家庭・学校・保育所・地域等の様々な場における自らの積極的な取組を推進することに加え、行政・教育・保育関係者・農林漁業者・関係団体などを含めた様々な関係者が、互いに連携を図りながら適切な情報提供や支援をしていきます。

施策のねらい０３

食の安全、安心と食品表示に関する情報を提供する

食中毒や食品添加物などについての膨大な情報が溢れている中で、正しい理解をすることは容易ではありません。また、食品の栄養価や原材料など、その食品がどのような機能を持っているかを理解できることは、食品の選択にあたって非常に重要なことです。市民一人ひとりが安全、安心な食生活を送れるよう、厚生労働省、農林水産省、消費者庁の情報の活用や、県と連携した啓発の取組など、市民への分かりやすい情報発信に努め、正しい選択ができるよう促します。さらに、市民の栄養の改善・健康の増進等を図るために食品に表示される事項である栄養表示や特別用途表示、食品の期限表示、ＪＡＳ表示等について、正しい理解と適切な使用ができるように情報を発信します。

数字から見える大和市の状況

食育に関心を持っている大和市民の割合は、

７４.１％（平成 30 年度　食育･歯及び口腔の健康づくりに関する市民意識調査）

食育の取組では、一人でも多くの方に食育に興味、関心を持っていただき、仲間を増やしていくことが重要になります。食は毎日の営みであることから、食を通じて、教育、農業、環境など様々な分野へと取組を広げていくことができます。
大和市民で食育に関心を持っている人は 74.1%で、神奈川県の調査結果とほぼ同水準にあります。また、食育に関心を持っている人の方が、自分自身が健康であると感じている割合が高い傾向にあります。

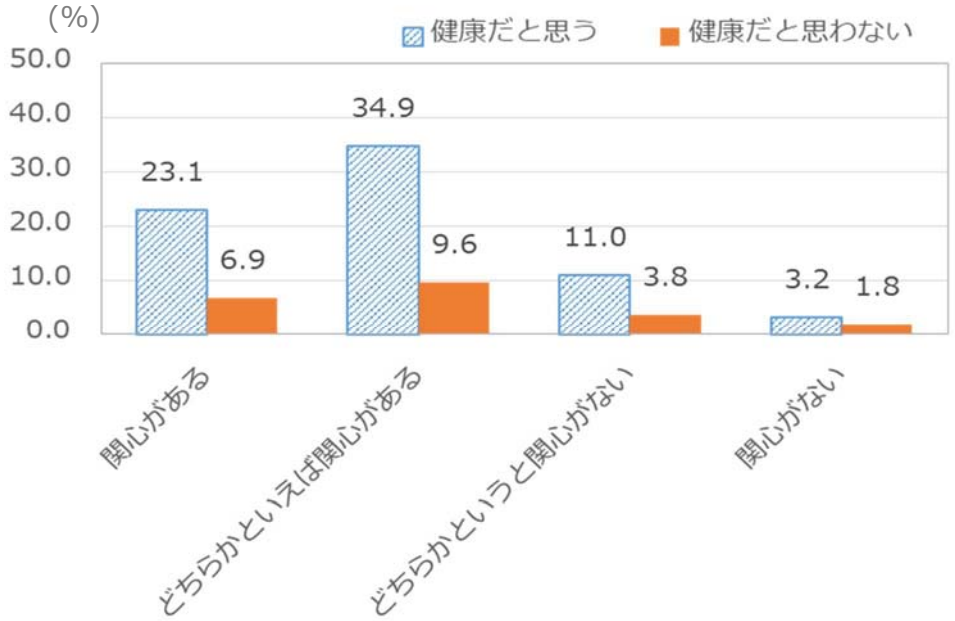
食生活改善推進員の地区組織活動

（料理教室、イベント等）の参加者数は、

年間２,２０４人（平成29年度実績値）

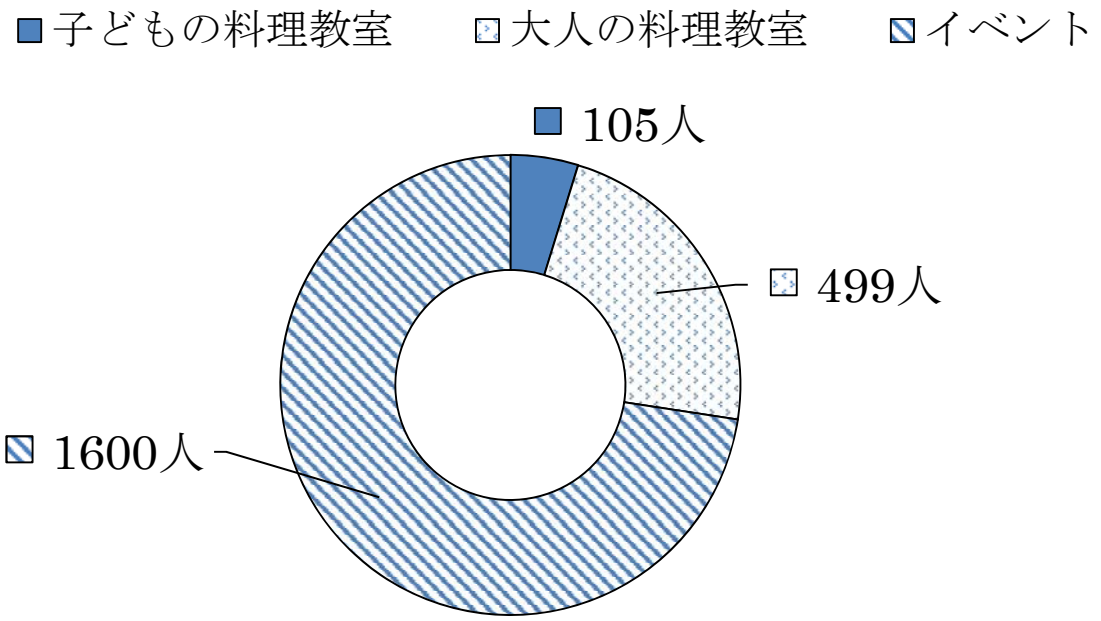
食生活改善推進員は、地域密着、生活密着で市民の皆さんの食生活改善をお手伝いしています。食生活改善推進員養成講座を受講すれば、どなたでも推進員になることができます。
平成 29 年度は、夏休み子ども料理教室、地場産物を使った親子料理教室などの料理教室や生涯学習センターまつり、みんなの消費生活展、やまと食育フェア、健康都市やまとフェアなどのイベントに携わり、大和市全人口の約１％にあたる 2,204 人の参加者の皆さんと、食育に取り組みました。
生活習慣病予防のメニューづくりでは、脂質（脂）、塩分（Na）を減らし、野菜（菜）たっぷりの「減ら脂Ｎａさい増やしな菜の食事づくり」の料理を考え、料理教室などで普及に努めています。

［大和市民の食育への関心と主観的健康感］



出典：平成 30 年度大和市食育・歯及び口腔の健康づくりに関する市民意識調査

［食生活改善推進員による地域活動への参加者数の内訳］



平成 29 年度　大和市食生活改善推進員協議会総会資料より作成

評価指標	現状値（Ｈ３０）	目標値
食育の推進に関わるボランティアの人数	１６２人 （Ｈ３０）	維持
食育に関心を持っている市民の割合	７４.１％	９０.０％
食事バランスガイドを内容まで知っている市民の割合	１５.４％	２０.０％
食品の安全性に関する知識がある市民の割合	５９.２％	９０.０％
食料品選択にあたって栄養価を重視する市民の割合	２１.４％	２６.０％
食料品選択にあたって安全性を重視する市民の割合	５３.５％	８０.０％

具体的な取組

取組区分	具体的な取組		担当
01地域の担い手との連携を進める	関係団体との連携	食生活改善推進協議会と健康普及員連絡協議会が共催して、健康づくり料理教室を市内１１地区で実施します。	健康づくり推進課
	食生活改善推進員養成講座	地域における食生活改善活動及び組織的な活動を図るため、食生活改善の指導者を養成します。	健康づくり推進課
	食育に関するボランティアの育成と活動支援（新規）	地域で食育や食生活改善活動に取り組んでいるボランティアグループに対して情報提供や活動助成等の支援を行います。 ※２０１８年３月現在、やまとボランティアセンターに登録し、食育に関する活動をしている団体は次の３団体です。①大和市食生活改善推進協議会、②栄養士みつわ会、③食のアトリエ	社会福祉協議会
02食育推進の意識啓発	健康づくり料理教室	食生活改善推進員が作成した献立（ヘルシー・減塩・野菜とカルシウムたっぷり生活習慣病予防のメニュー）を作る教室を実施します。	健康づくり推進課
	若い世代への食生活改善の啓発活動	健康メニューや、手軽に作れる料理レシピなどをホームページなどで配信します。	健康づくり推進課

取組区分	具体的な取組		担当
02食育推進のための意識啓発を進める	食事バランスガイドの普及啓発	食事バランスガイドについて、市のホームページや講習会、講座、教室などで情報発信し、普及を図ります。	健康づくり推進課
	どこでも講座	一般の方を対象にした食に関する講話を、管理栄養士が行います。	健康づくり推進課
	シニア世代向けの昼食会の開催	介護予防を目的とした教室型の昼食会と、一人暮らしのシニア世代向けの昼食会を同時に開催し、食生活改善推進員の手作り昼食で共食と交流を図ります。 　介護予防と交流（孤立防止）を目的とした会食会： ・昼食会：市内１１地区のうち６か所 ・一人暮らし高齢者に限定した昼食会２地区 （市内１１の地区社会福祉協議会のうち）	社会福祉協議会
	ミニサロンでの食育（食生活改善）教育の実施（新規）	市内１１の地区社会福祉協議会では、介護予防並びに引きこもり防止を目的としたミニサロン事業を開催しており、サロンのプログラムに様々な介護予防メニューが取り入れられるなか、生活習慣病予防のための栄養や食事もテーマに取り上げています。	社会福祉協議会
	こども食堂への食に関する情報提供（新規）	地域におけるこども食堂の活動がより円滑に進むよう支援することを目的として、食に関する情報提供を行います。	すくすく子育て課 健康づくり推進課 こども・青少年課
03食の安全・安心と食品表示	食中毒予防キャンペーン（協賛事業）	食中毒予防月間（８月）に、食中毒予防キャンペーンを開催し、啓発物品の配布やキャンペーンカーでの巡回を行います。	健康づくり推進課
	栄養表示等に関するわかりやすい情報発信	栄養表示等に関するホームページを作成するほか、神奈川県と連携して啓発用リーフレットの配布を進めます。	健康づくり推進課

子ども食堂
こども食堂は、一人で食事をする「孤食」の子どもを減らし、子どもたちが安心できる地域の居場所づくりや保護者への子育て支援を目的に、地域の人が中心となって取り組んでいます。

子育てサロン
小さなお子さんのふれあいの場である子育てサロンで、乳幼児期の食事のポイントやレシピの紹介などのお話をします。また、食事について個別の相談に応じます。

高齢者お楽しみ会
渋谷西地区社会福祉協議会の「高齢者お楽しみ会」では、食生活改善推進協議会と連携し、手作りの栄養満点の食事を囲みながら様々な催しや下福田中学生とのふれあいを行っています。

作って食べよう子ども料理教室
地域活動栄養士「みつわ会」では、自分で作って食べることで、料理する楽しさや喜びを実感し、こどもが食への関心を深められるようサポートをしています。

健康づくり料理教室
食生活改善推進員、健康普及員が連携した取組です。料理を作り、一緒に食べる楽しさや喜びを通して、食への関心を引き出すよう取り組んでいます。

親子農業体験会
農業体験の定番、さつまいも掘りです。しっかり根をはったさつまいもを親子で協力して収穫しました。土の感触を、存分に味わっていただいています。

Topics④ 地域で広がる食育の取組

親子農業見学会
農家の協力で、親子で農業に触れる機会としています。りんご園では、農家の方のお話しを聞きながら、もぎたてのりんごを味わえます。

食について考えさせられる「食育」の本

消費者と「食」にかかわる人のための新しい食品表示がわかる本

SiRiUS Select

食品表示の見かた、知っていますか?

ここ最近よく聞く「特定保健用食品」いわゆる「トクホ」。健康に良さそうだから、食事に取り入れたいけれど、何がいいのかわからない…そんな時、食品表示を見てみると…。食品表示には、アレルギー表示、消費期限のほか、添加物や原産地情報など、私たちが安全に、健康に食べるための情報がたくさん詰まっています。

食品表示のたくさんの情報を読み解くヒントになる１冊です。

著者：森田満樹／著　　女子栄養大学出版部

コミュニティ・レストラン

SiRiUS Select

コミュニティ・レストラン、略してコミレス！

　コミレスは、「楽しく働き、美味しく食べる、くつろぎの場」をつくり出すことを目的とし、「食」を通して、地域の中で人と人とが出会い支え合う場や、高齢者のコミュニティの形成を目指しています。さらに、地産地消をすすめることが、フードロスをなくし、地域の生活自立支援につながることも目指しています。

　地域の状況に応じて多様な展開で広がるコミレスの可能性をのぞいてみませんか。

著者：世古一穂／編著　　日本評論社